



国際第2委員会 (委員数 28名/担当：山中 常務理事)

◆活動方針：

- グローバルに活躍できる知財人材となるための機会を提供する
- 国内外への情報発信によりJIPA会員の知財活動に貢献する

◆主な活動

◇会議派遣：

- PCT作業部会・・・PCT総会に上げる議題の検討
- SACEPO・・・EPOとユーザー団体との審査品質に関する意見交換

◇意見交換：

- JPO定例（審査基準室・品質管理室）、EPO、WIPO
- その他団体（英国公認代理人協会、途上国審査官等）

◇発信：

- 論説、冊子、外国特許ニュース、JIPAシンポ、部会発表

◇リクルート：来年度の委員数に不安がある

(2018年度：39名 ⇒ 2019年度：28名(うち新任6名))

来年度、国際第2への委員の派遣にご協力をお願いします！





第1小委員会 (WG1 : 6名, WG2 : 6名, WG3 : 6名)

- ◆ WG1 : 英国訴訟における均等論/経過参酌の動向調査
 - ◆ 狙い : Actavis最高裁判決(2017)により再構築された基準による近年の判決動向を調査し、英国裁判における権利解釈の指針となる情報を提供する。
 - ◆ 調査概要 : (1) Actavis判決とImprover判決(1990年)との基準比較
(2) Actavis判決前後の他判決の事例分析(基準適用状況)
(3) 対応外国特許の判決の事例分析
 - ◆ アウトプット : 知財管理誌への論説投稿
-
- ◆ WG2 : EPO審査における1stOAとしての口頭審理に関する研究
 - ◆ 狙い : 1stOAとして口頭審理ができるようになったが、その運用や対応に関する知見は少ないため、実態調査を行い今後の実務に役立つ情報を提供する。
 - ◆ 調査概要 : (1) 各種のデータベースから調査する案件を決定
(2) 調査&解析、実務上の留意点の考察
 - ◆ アウトプット : 知財管理誌への論説投稿



第1小委員会 (WG1 : 6名, WG2 : 6名, WG3 : 6名)

- ◆ WG3 : Unwired Planet v. Huawei控訴審と
その後の裁判例を通じた知財戦略の提言
- ◆ 狙い : 欧州における主要特許判例の研究を通じ、WGメンバーの知識・理解の向上を図るとともに、議論の結果から会員企業に提言を行う。
- ◆ 調査概要 : 以下判決を読み込み、背景と争点の確認、各論点や疑問点を討議する。その後の動向や判例も確認し、実務上の提言をまとめる。
2017, Unwired Planet v. Huawei 英国高等法院判決 (一審)
2018, Unwired Planet v. Huawei 英国控訴院判決 (控訴審)
- ◆ アウトプット : 知財管理誌への論説投稿

- ◆ 冊子チーム : 「ドイツ特許権侵害訴訟実務マニュアル」改訂
- ◆ 狙い : 2017年度からの継続テーマで、今年度完成予定
- ◆ 調査概要 : (1)相互査読・校正から最終確認 (～8月末)
(2)理事査読、発行準備(9月～)
- ◆ アウトプット : 冊子発行・臨時研修





第2小委員会（9名）

- ◆ WG4：補充国際調査(SIS)の活用検討
 - ◆ 狙い：補充国際調査(SIS)利用の実態と活用方法を探る
 - ◆ 調査概要：(1)請求時期、請求官庁、国内移行後の審査結果等の傾向を分析
(2)PCT協働調査試行プログラムとの比較検討
(3)SISの活用方法を提案
 - ◆ アウトプット：知財管理誌への論説投稿
-
- ◆ 冊子チーム：「PCTを巧く活用する方法」改訂
 - ◆ 狙い：初版(2012年)に対し現行制度に合わせた改訂を行い、利用価値を高める。
 - ◆ 調査概要：(1)現記載内容の更新（規則、リンク先など）
(2)実務視点に加え、手続き視点の追加
(3)本書発行以降の委員会集計データとのリンク
 - ◆ アウトプット：冊子発行・臨時研修